

特別寄稿

ホンコンにおける家庭医療の教育

竹村 洋典^{*1} ラム タイ・ポン^{*2}

^{*1}三重大学医学部附属病院総合診療部

^{*2}ホンコン大学医学部家庭医療学科



ラム (左) と竹村 (右)

1 ポン先生？

この度、ラム タイ・ポン先生が、三重大学にてホンコンでの家庭医療卒前教育について、また、神戸の第25回日本プライマリ・ケア学会にてホンコンでの家庭医療卒後教育について各々講演されました。ラム タイ・ポン先生は、ホンコンに2つしかない医学校の一つ、ホンコン大学医学部の家庭医療学科准教授です。来日前には、ラム・タイ・ポン先生をポン先生とお呼びしていましたが、その後、先生からラムが私の苗字です、と御指摘があり、とんだ間違いをして恐縮しておりました。しかし、先生にお会いして、非常に優しいお人柄に接して安心するとともに、家庭医療の教育者らしさを感じました。

我々は、欧米の医療や医学教育に接する機会が多く、その内容から学ぶこともあるわけですが、今回、三重大学と日本プライマリ・ケア学会での講演でラム先生のお話を拝聴し、アジアの国にも我々が参考にすべきことがかなりあると思われました。これらの講演に参加しなかった皆様にとってもためになる内容と思われまますので、飲み会で得た情報を含めて、ホンコンの医療や医学教育を報告したいと思います。

2 ホンコンの医療

ホンコンの医療は、健康保険組織が存在せず、したがって医療の効率や費用対効果が他国と比較にならないほど、とても重要だそうです。ホンコ

ン政府が選んだのは、英国やカナダにおいて成功しているプライマリ・ケア主体型システムでした。そのプライマリ・ケア主体の医療を実現するために、1998年に抜本的な医療改革を行いました。しかし、ホンコンではまだ病院が医療の中心となっており、医療システムは理想的な状況にはなっていないそうです。

3 ホンコンの医学教育改革

1998年の医療改革の一つの政策として、医学教育の改革も同時にあったようです。その改革の一つに、多くの卒業生をプライマリ・ケアを行う臨床医にすることでした。1985年には家庭医療の研修医はホンコンでたった5人でしたが、現在、医学部卒業生の50%が家庭医療の卒後臨床研修を受けるようになりました。驚きですね。ではどのように医学教育改革をしたか、以下に説明いたします。

4 ホンコン卒前医学教育におけるプライマリ・ケア教育

ホンコンの医学校は、高校卒業後に入学して5年間のプログラムです。プライマリ・ケア医を多くする工夫が随所になされています。

まず第2学年の時に、家庭医のところへ研修に行きます。第2学年ではまだ臨床に接することも少ないのですが、このころに、大学から出て地域の家庭医に接することによって、医療制度におけるプライマリ・ケアの役割を認識させます。時には、患者とともにその患者の家にまで行って、そ

編集部注 編集部の手違いにより掲載が遅れました。深くお詫び申し上げます。

特別寄稿

の家庭や地域の中で家庭医の果たしている役割を理解させるそうです。日本でも、アーリー・イクスポージャーと称して実行できそうですよね。

ついで第4学年から第5学年にかけては、家庭医療学科でのクニリカルクラークシップが必修となります。この期間は、これまで習得した医学医療の知識、技能を、適切な態度を持って、家族や学校、職場などの地域の環境の中でいかに適用していくか、そのもっとも効果的な適用ができる臨床医になることが教育目標となります。家庭医療学科クリニカル・クラークシップでは、プライマリ・ケアに必要な医療面接、身体診察、臨床判断、診療録の書き方等のプライマリ・ケアに必要な基本的知識、技能をまず研修させます。ビデオレビューをうまく使っているようです。また、臨床でよく遭遇するコモン・プロブレムをPBL (problem-based learning) - チュートリアル形式で教育しています。さらに、期間中に家庭医と行動をとるもにして、いままで習得した知識、技能がいかにしてプライマリ・ケアのフレームの中で使われているか、理解させるそうです。日本にも、地域の家庭医といっしょになって卒前医学教育ができる仕組みが、ぜひとも必要ですね。

5 ホンコンにおける

家庭医療の卒後臨床研修

ホンコンにおける家庭医療の卒後臨床研修は6年間のプログラムです。はじめの4年間は基礎研修、おわりの2年間は高等研修と呼ばれています。基礎研修の目的は、家庭医療を行う上で必要な知識、技能、態度を身に付けることで、基礎研修の最初の2年間は病院で行われ、次の2年間は市中の診療所で行われます。高等研修期間は、基本的には独立して診療を行い、定期的に診療の内容、診療の管理的なこと等につき指導を受けるようなシステムになっているそうです。研修中、英国総合診療医学会と共通の試験を行っています。2年間の研修後に筆記試験があり、また、基礎研修の

終了時に臨床的な試験を行います。そして6年間の研修が終了する時は、研修終了資格審査委員会による審査を受け、これにとおれば、ホンコン医師会からフェローシップの称号が授与され、ホンコン医学委員会に家庭医専門医として登録されるそうです。

ホンコンでは家庭医の需要が短期間に急速に拡大したため、家庭医療卒後臨床研修の教育スタッフの不足が現在大きな問題となっているそうです。さらに、家庭医療卒後研修の質の管理をいかに行うかも、現在の大きな課題だそうです。日本においても、同じ問題があるかもしれませんね。

7 おわりに

アジアにも日本と異なる医療が存在して、その特性にあった医療の形態をとっていることが分かりました。また、その医療を発展、維持させるために医学教育にも独自の工夫がなされていることが理解できました。また、プライマリ・ケア/家庭医療の教育においては、かなりしっかりとした医学教育システムが組み込まれているようです。ちょっと自慢のようですが、三重大学総合診療部のカリキュラムとかなり似ている点があって、「なかなかやるな」と思いました。

日本は、平均寿命が世界一でそれなりにうまくいっているのですが、それゆえに、世界の国々の医療が多少目に入らなくなる可能性も存在するのではないのでしょうか。また、情報源が欧米諸国に片寄り過ぎている可能性もあります。参考にすべき医療や医学教育は我々にとって身近なアジアにもありそうです。この報告が、皆様のなんらかの参考になれば幸いです。

連絡先：竹村 洋典

〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174

三重大学医学部附属病院総合診療部

TEL：059-231-5290 FAX：059-231-5289

E-mail：yousuke@clin.medic.mie-u.ac.jp